住まい・暮らし・文化

三菱地所に「メセナ」大賞

障害児への音楽体験提供が評価

アーバネットC、ポラスも優秀賞

企業メセナ協議会（東京都港区、尾崎元規理事長）は11月2日、「メセナアワード2017」の受賞活動7件を発表し、最高賞である「大賞」に「三菱地所のShall Weコンサート（出張コンサート）」（三菱地所）が輝いた。また住宅・不動産業界からは、優秀賞として「アートの玄関賞」に「アート・ミーツ・アーキテクチャー・コンペティション」（アーバネットコーポレーション）が、「街が踊る賞」に「南越谷阿波踊り」（ポラス）がそれぞれ選ばれた。

中村可奈子

㊨受賞発表会でコメントする三菱地所の中村氏 ㊧「Shall Weコンサート」の開催風景（提供＝同社）

1万人の子供が参加

大賞に選ばれた三菱地所の活動は、毎年都内の特別支援学校5、6校を対象に実施している出張コンサート。当初はホール等での自社運営コンサートとして始まり、96年から20年以上にわたって行っている活動で、これまで延べ76回開催し、参加した児童・生徒は約1万人という大きな規模となった活動だ。

全体の企画・運営を同社社員が手掛け、出張先の学校の状況と要望に応じたプログラムを演奏者と共につくりあげる「手づくりコンサート」であり、障害のある子供たちへの音楽鑑賞・体験の機会を創出し、豊かな感性を育んでいるとして高い評価を受け、今回の受賞に至った。受賞発表会で、三菱地所の中村可奈子氏は「子供たちが楽しんでくれていることが、活動の喜び」と笑顔で語った。

学生のアートを支援

「アートの玄関賞」を受賞したアーバネットCの活動は、01年から開催されている学生限定の立体アートコンペ。都市マンションの不動産開発を行う同社が、自社の手掛ける新築マンション一棟のエントランスホールに展示する立体作品を毎年公募するというもので、陶器をはじめブロンズやアクリル、漆など、様々なアイデアの作品が全国から寄せられている。

同協議会は「彫刻分野で学生を対象にした前例のない活動で、経営資源を生かした継続的な支援により、若手の育成に貢献している」と活動を評価。アーバネットCの山本文美氏は今回の受賞を受け、「社員一同大変喜んでいる。これからも、立体アートに取り組む学生への支援や育成を続けていきたい」と話した。

「地域の祭」を創出

また「街が踊る賞」受賞の「南越谷阿波踊り」は、埼玉県越谷市に本社を置くポラスグループ創業者で徳島県出身の中内俊三氏が、地域への恩返しとして立ち上げに尽力し、85年から開かれている祭。同グループは、これまで33回にわたって継続して祭への支援を行っており、現在では3日間で延べ70万人が訪れる大規模なイベントへと成長。12年からは東日本大震災の被災者に向けた慰問活動も行っており、同グループの施工した宮城県の仮設住宅で阿波踊りが披露されたほか、同仮設住宅の住民を本祭に招待する取り組みも行われている。

審査では、「一企業による地元・公共への貢献として、長年をかけてふるさとづくりに寄与し、地域祭礼へと成熟している。祭を通して世代間や地域間をつなぎ、地域社会に活気を与えている」と評価された。ポラスの江本昌央氏は受賞を受け、「これからも『ふるさと意識』を地元に根付かせていきたい」と抱負を語った。

「メセナアワード」は、企業によるメセナ（芸術・文化振興による社会貢献活動）の充実と社会からの関心を高めることを目的に、91年に「メセナ大賞」として同協議会が創設し、03年から現在の名称として行われている表彰制度。日本国内に所在する企業や企業財団などが実施するメセナから、インパクトや独自性、継続性などの優れた活動を選定して、毎年表彰を行っている。